



目次

2024年度研修会	1,2	Nice to Meet You 「しば日本語土曜日クラブ」(港区)、	
オンライン教材活用事例「U-biq」	3	「上水日本語の会」(小平市)	6
紙上講座 「行かれてください」と言われた私は ...	4,5	定例活動報告、column	7,8



TNVN
ホームページ
QRコード

TNVN2024年度研修会報告

3月14日金曜日19時から20時半まで、TNVN主催の本年度の研修会がオンラインで開催されました。24名(13団体会員、個人会員1名)の参加がありました。以下に研修会の内容の概要を報告します。

※研修会の資料はTNVNのホームページに掲載されています。 <https://www.tnvn.jp/report/> (閲覧にはパスワードが必要)

■第1部 東京都多文化共生ポータルサイト(TIPS)の紹介

報告者: 東京都つながり創生財団多文化共生課 課長代理 井上伸子氏

《東京都つながり創生財団多文化共生課の紹介》

多文化共生課では、①外国人相談窓口として14言語による外国人からの問い合わせに合わせて必要な情報を提供、②在住外国人向けの情報発信(ポータルサイトやSNSを活用)、③外国人向けの生活情報冊子の作成、④地域日本語教育の推進のための東京日本語教室サイトを運営、⑤やさしい日本語啓発として、役立つツールの開発や研修会の実施、⑥東京の国際化や多文化共生を考えるイベントを年一回開催、などを実施している。

《TIPSの紹介》

多文化共生ポータルサイト(TIPS)は2023年にオープンした。都内在住外国人、外国人支援に関わる人、及び多文化共生に関心を持つ人を対象とする。記事全てにふりがなのオン/オフができ、多言語のサポートもしている。

TIPSは大きく3つの部分から構成されている。

(1) 外国人の役に立つ情報(外国人向け)

① 相談したいとき

やさしい日本語や外国語で相談できる窓口情報をまとめて載せてあり、困り事ごとによって探すことができるようになっている。

② 生活の役に立つ情報

日本で生活するときに必要な手続きや役立つ情報を提供している。東京で初めて生活する人のための生活情報デジタルブックも来年度にアップ予定。言語は最近増えているインドネシアやミャンマーの言語を含め10言語で用意。東京の生活を楽しくしてもらうための東京紹介の動画もアップしている。

③ 災害について知る

地震や風水害などの災害についてのコンテンツも、10言語で提供され、イラストを多用し、アニメでも学べるよう工夫がされている。(Wi-Fiのない教室で使いたい場合、財団に問い合わせれば、PCにダウンロードできる形で提供されるとのこと)

④ 日本語を勉強したい

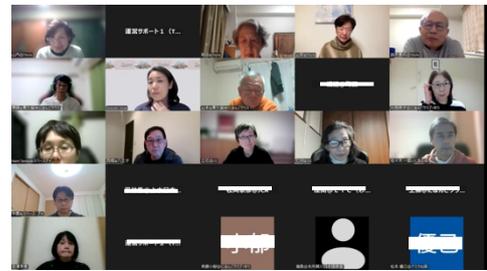
日本語教室を探すことができる。

(2) 多文化共生に関する情報(日本人向け)

やさしい日本語の普及と活用に役立つコンテンツを提供。またやさしい日本語に関連して、やさしい日本語用語集や子育て・教育分野のかわいいイラスト集も提供している。チラシその他を作るときに自由にダウンロード可能。

(3)その他のさまざまな共有コンテンツ

- ・生活上よく使われる用語をやさしい日本語で紹介
- ・多文化共生活動をしている団体を紹介
- ・東京在住の外国人による座談会を企画・紹介
- ・都内で活動している国際交流協会や支援・交流団体を紹介



研修会の様子



TIPSの全体構成

<感想>

TIPSの膨大なコンテンツに改めて驚きました。学習者と一緒に見てみる、一緒に発見し、こんな時はここを見ると良い、とわかるようになることが肝心だと思いました。やさしい日本語の動画集は日本人の勉強にも役立ちますね。

(文責:山形)

■第2部 日本語ボランティア活動におけるTIPSの活用について

報告者:スペース・アイ 鈴木恵司(TNVN 代表)

《スペース・アイの活動について》

スペース・アイは渋谷区で日本在住の外国人の日本語会話能力の向上を支援する日本語ボランティアグループ。週1回2時間、日本語のみでテーマ・やり方は自由な会話(おしゃべり)を実施。

基本的には日本語能力が中級以上(JLPTN3以上)の外国人を受入れている。

《オンライン・コンテンツの利用状況》

現状はスマホやPCでオンライン・コンテンツを利用している。各種SNS、YouTube、Googleマップ、食べログなど、実に多種多様なオンラインコンテンツを利用。

《オンラインの日本語教育教材について》

「つなひろ」、「いろどり」など多くのオンライン日本語教育教材があるが、多くの教材が初級向けであり、かつ外国人が1人でも学べるよう(独習用)に作られたものが多い。中級向け教材はこれといったものがなく、様々なネット上のオンライン・コンテンツを工夫して利用しているのが現状。

《TIPSの外国人向け情報の特徴》

- 日本で生活する外国人にとって必ず必要となる情報が幅広く載っている。
- 初級者向けには、ふりがな付きや母国語への変換が簡単にできる。

《スペース・アイの外国人にTIPSを見てもらいました》

- ① Yさん(中国/女性)
私にとって、とても便利です、「初めに日本に来た時これあったら助かる」と思います。
- ② Hさん(韓国/女性)
教材の一環として、一緒に見ながら日本のシステムやルール、マナーなどを説明するなら役に立つのでは？
- ③ S君(韓国/男性)
サイトは使いやすく、幅広い分野の情報を提供しています。多言語対応の翻訳の質も高く、利便性に優れています。
- ④ H君(ベトナム/男性)
ポータルの内容の分かりやすさといい、デザインといい、とても便利で役に立って価値があるサイトだと思います。

《TIPSの教材としての利用について》

- 中級以上の外国人には、「教材」として充分使える
- ケース1) 日本滞在歴がまだ短い外国人に対しては、「外国人の役に立つ情報」を読み合わせ、日本で生活するための必要な知識と共に関連する日本語を学んでもらう。
- ケース2) 日本に長く在住している外国人に対しては、「外国人の役に立つ情報」をベースにして日本で生活するための最新情報と関連する日本語を学んでもらう。

(文責:鈴木)

オンライン教材活用事例 「U-biq」

ちよだ日本語カフェ Swan 中村三千子

ちよだ日本語カフェSwanは、文化庁委託事業として東京日本語ボランティアネットワーク(TNVN)の林川先生や、梶村先生によるボランティア入門講座を受講したメンバーによって生まれました。なので、Swanは、TNVN生まれと言っても過言ではありません。今年の3月で設立10年を迎えました。当団体に入会を希望する方には私たちが受講した14回の入門講座を共有しています。設立当時から資金がなかったので、教材などが買えず、ネットから教材を探してクラスを行っていました。また、最初は対面のみでしたが、コロナが来たことで、オンラインクラスに余儀なくされました。10年前の入門講座で、「インターネットを使ってみよう」という講義もあり、内容をスタッフに共有していたこともあり、オンライン化した時も以前教えて頂いた教材をもとに、試行錯誤しながらクラスを行っています。今回は、そのうち実際に使っている教材を紹介します。

まず、オンラインクラスの大前提として、zoom アプリのブレイクアウトルーム機能を使い、日本人スタッフ1名に対し、学習者1名もしくは2名の部屋を作り、学習者のレベルに合わせて日本語を教えています。学習者は当日まで誰が来るのかわからないので、クラス開始時に、担当者がマッチングしています。中級以上の学習者が多いので、フリートークが基本になりますが、入門レベルの学習者には難しいので、以下のオンライン教材を使ってクラスを進めています。



今は、国際交流基金が作成した、誰でも無料で使える「いろどり」という素晴らしい教材がありますが、2009年より存在していた「U-biq」を教材として活用しています。ひらがなが読めない学習者には、この教材のひらがなが練習帳からはじめています。この教材の良いところは、ひらがなが読めない学習者でも、簡単な英語や、ローマ字が読める学習者であれば学習することができることです。例文があり、その例文に対する練習がいくつかあり、練習問題を解くことで日本語の定着がはかれます。

私はいつも、「新しい単語(New words)」を読んでもらい、意味を理解し、新しい単語を覚えてもらうことか

らはじめています。そのあと、文型や例文を紹介し、練習問題を解いています。私が仕事でクラスに入れない時も、毎週引継ぎノートを作成し、何を学習したかスタッフに共有しているので、別のスタッフが担当しても、次の章から学習することができます。毎週1時間のみのオンラインクラスなので、なかなか進むペースは遅いですが、最初にクラスに来た時よりも、だいぶ学習者の日本語レベルが上がったと実感できています。また、昨年より、台湾人の方が日本語を外国人に教えたいとスタッフとして来てくれており、彼女は英語ができるので、この教材を使って、入門レベルの学習者に学習のお手伝いをしてもらっています。こういった教材があることで、外国人でも日本語を教えることができるので、大変助かっています。



ある程度日本語ができる学習者には、NHK のやさしいことばニュースを活用しています。このサイトの良さは、学習者のレベルによって、ふりがなを付けたり、消したりことができ、ニュースを音声で聞けるので、ヒヤリングの学習にもなることです。ニュースを聞いたり、読んだりした後は、ニュースの内容を日本語で説明してもらったり、意見を述べてもらったり、場合によっては、母国の取り組みを教えてもらい、情報交換をしています。やさしいことばニュースを学習者に共有したことをきっかけに、毎日このニュースを読むようにしている学習者もいます。

クラスをオンライン化したのは2020年7月。オンラインクラスも200回を超えました。学習者が海外現地からも参加できるようになり、オンライン化してからの5年間、ずっと現地から参加し続けてくれている学習者もいたり、中国版 youtube ビリビリにも、クラスが紹介されたりして、オンラインでの学習ニーズを感じています。これからも学習者に寄り添いながら、日本語学習のお手伝いを通じて、日本への理解を深めてもらえるよう精進して参ります。



「いかれてください」と言われた私は・・・

日本語教師 金子広幸

仕事日本語に関する事なので、外国人学習者はもとより、日本語母語話者の待遇表現の使い方を無意識に観察しています。今回もまたそのお話にお付き合いください。

最近20～30代の会社員がサービスの場面でよくお客に対して使うようになったのが「行かれてください」です。「イかれてください」と言われた私は、一瞬本当に「イかれて」しまってもいいかと思いました。

この動詞の後につける「れる・られる」は、私たちが国文法で習った尊敬の助動詞で、動詞の語幹につけて使います。日本語学習者は、この語幹と助動詞が結び付いたものを「尊敬形」と呼んでいます。

- ハンカチ、落とされましたよ
- 明日も参加されますか？
- お元気になられましたか？
- 食事されてからいらっしゃってください。

などの使い方があります。「なさいます」に比べると、敬意は低いと見られていますが、一応尊敬の表現で、東京など東日本の人はよく使っていますよね。

私は拙著でこの種の敬語表現を「かんたん尊敬語」と名付けてみたのですが、…実はそれほど簡単な話ではありませんでした。

この「かんたん尊敬語」は「～てください」の形にはならないはずですが、…というか「はずでした」。拙著の中にも『このかんたん尊敬語は「～てください」の形にはなりません』と書きました。丁寧な言い方をすれば、「いらっしゃってください」や「おいでください」がいいのですが、これらは若い人には丁寧すぎるイメージがあって、避けてしまうらしく、「かんたん尊敬語」を使って「～てください」の形を作ったんですね。最近はこの形があち

こちで聞かれるようになったのです。

- 明日 9 時に来院されてください。
- 疑問に思われましたら、質問されてください。
- どうぞお手に取られてください。
- 必要な資料はコピーされてください。
- 明日もまた来られてください。

この辺はよく聞かれますよね？

さらに、

- どうぞ皆さんで食べられてください！（え？人喰いライオンに??）
- よろしかったら写真を撮られてください。（え？盗撮されるの??）

と誤解を招くものもあります。

読者の皆さんの中にも、あまり抵抗がないかたもいらっしゃるのでは？

クラスの学生たちも、それに気がついて私に質問してきます。『目上の人に頑張ってもらいたいと誠実に思ったので「頑張られてください」と言ったのに、これはおかしいと言われた、でも他の尊敬の文型を使って「お頑張りください」とは言わない、じゃあなんて言うの?』…確かにこの学生の言いたい事はよくわかります。

実は「頑張れ」という指示は、目上が目下に言う表現なので、敬語表現と共起するのが難しいのです。このように「言葉そのものに備わる性質」を理解していないと、待遇表現も上手にならない状況もあります。例えば、学生からのメールに「ご報告ありがとうございます」と書かれていることがありますが、「報告」の部分の直すように指導しています。「報告」は目下から目上にするものだという性質が関わっているのです。

敬語をはじめとする待遇表現が使われる社会は、複雑な要因が絡んで成立しているのだと実感します。

またさらに気になる例を挙げましょう。

銀行の窓口等で聞いていると、依頼の形として「～てもらってもいいですか」「～いただいてもよろしいでしょうか」と使う人が増えました。それは「～してください」には指示や命令のイメージが伴うので避けることにして、「何々してもらおうこと」を「お願いする」形が丁寧だと思えるようになったのでしよう。

よくテレビに出てくるマナーの先生たちも「可能表現を使って許可を求める形で聞けば丁寧になる」と勧めていますよね。何々できますか？お願いできますかと可能形で聞くと丁寧になるという考え方は。

私の考えでは、この場合は本当に指示なので、丁寧すぎの感があっても、敬語の文型で丁寧さを添えて

「こちらにお名前をお書きください」というようにストレートに依頼しても良いと考えます。

まとめると、最近は「丁寧すぎないようにしよう」という動きがあるのかもしれませんが。敬語の体系に入っている表現をあえて使わず、過剰な丁寧さを避け、許可を求める形や可能形を使うことで、丁寧さを表す動きです。「～でございます」ではなくて「～になります」になった背景には、この心境が働いているかもしれません。

それでは、日本語のクラスではどうしているかで締めくくります。

私のクラスでは、面接の発言の準備などもするんですが、そのとき書き言葉と話し言葉が混ざってしまう時があります。この書き言葉と話し言葉の差は、外国人学習者には把握が難しく、みよように混在してしまうことがよくあります。

「これらの日本人の行動は、我々には理解困難であり、…」

は話し言葉なら

「私が見た周りの日本の方々の振る舞いは、私たちには理解がとても難しく、…」

となるのですが、漢字語彙の過剰な使用や

「～であり」という言い方が日本語母語話者にはやや奇異に響いてしまいますね。

この「であり」を連発する学生には、「て形に言い換えると話し言葉として自然になるよ」と言っています。

このように、細かな手当てが必要です。

そして、全体的な感覚がつかめてきたら、こんな練習をしています。「書き言葉で書いて、話し言葉で発表する活動」です。大学生はレポートを書くときは書き言葉で書いて、発表の時には、それを見ながらポイントだけを話し言葉で発言することがあるからです。その時には「聴衆に対してや、必要ならその発言内容の登場人物に対しても、適当に敬語を使ってね」と指導しています。

お互いを尊敬する気持ちは、本来、言葉の形だけで表現するものではないはずなのに、人類が言葉でコミュニケーションしている以上、その社会では決められた規範があって、そこから逸脱すると、そう言われたほうが「尊敬されていない！」とってしまうのですね。

先日、マンションのエレベーターで出会った新しい隣人が外国の人だと気が付きました。声をかけると丁寧に挨拶してくれました。でも、別れ際に「じゃあね」。ちょっとびっくりしたのですが、それでも、一連の態度や流れから、近所に住んでいる日本の老人に対する態度として、丁寧に挨拶しよう・対応しようという気持ちは十分に私には伝わりました。本来の出発点はここであるはずですね。気持ちの方が大切です。



nice to meet you

■ 明るく、楽しい日本語教室を

しば日本語土曜日クラブ(港区)

代表/加賀鐵雄

「しば日本語土曜日クラブ」(SNSC)の前身である「しば日本語クラブ」は、社会福祉活動、コミュニティー活動、国際協力に寄与する目的の下に、NPO法人・新現役ネットの活動の一つとして、2017年7月に発足しました。

2024年9月、新現役ネットは解散する事になり、10月よりSNSCは「しば日本語クラブ」の活動で培われた経験と在留邦人の方々との絆の上に、更に交流の場を広げて行くことを目指し、新たに日本語ボランティアクラブとして、再スタートしました。

日本語学習支援、日本の生活・文化・ビジネスに関する学びの場の提供、日本語教室を通じての国際交流を目的としています。授業の開催は、



・第一 & 三土曜日午後 JR 田町駅、メトロ三田駅徒歩 7 分 みなとパーク芝浦・多目的室。一対一の対面授業をベースにしておりますが、随時サテライト授業、オンライン授業も実施しております。

・初回無料、以降は一回 500 円の授業料

・現在、指導者 15 名、学習者 30 名程(中国、インドネシア、イタリア、スペイン、フランス等)。

学習者の国籍、年齢、性別を問わず、学習者に寄り添った授業方針のもと、「明るく、楽しく、一生懸命」をモットーに授業をしていますので、毎回学習者の笑顔、笑い声が絶えない雰囲気です。日本語ボランティア活動に興味のある方は、資格、授業経験の有無に拘わらず、一度 授業見学にお越し下さい。お待ちしております。

会員団体紹介

Nice to Meet You

nice to meet you

■ とともに学ぶ場

上水日本語の会(小平市)

代表/菊地征夫



上水(じょうすい)日本語の会は、上水南町連合自治会長の渡邊清と副会長の菊地征夫の二人が、坂本公民館長の協力を得て、上水南公民館で、主に地域の外国人居住者を対象に始めたもので、初めは学習者は二人でした。2025年1月現在の学習者は18名、支援者は23名です。基本はマンツーマン、授業料は無料、支援者は無報酬、金曜日午後7時～8時半が授業です。

現在の学習者の出身地は中国、ベトナム、パキスタン、ギニア、トリニダードトバゴです。学習者は小学生、留学生、ビジネスマン & ウーマン、研究者、主婦、ALT、技能実習生と様々で、日本語レベルも様々です。支援者も様々で、高校生、大学生、工学博士、教授、元教師、元ビジネスマン、主婦、日本語教育資格者です。幸い、民生・児童委員の顔の広い人がいてこれぞと思う人たちをリクルートしてくれています。

自分は能力もないのに周りの皆に支えてもらっているラッキーな人間です。日本語が専門でもなく電気屋で、英国と米国に駐在して、背景に大きな会社の支援がありながら、外国人が外国で暮らすことは生易しいことではないことだけは知っている者です。助詞だけでも相当に悩む学習者ですが、それに取り組んでいる外国人にはただただ敬意を払います。

最近、楽しいことがありました。中国の青年が日本語検定1級に合格しました。その青年には年配のご夫婦が二人がかりで教授を続けてきた成果です。小さな日本語教室ですが、それ故にこそこのような展開もできる。支援者は色々な工夫を努力しています。そして、一様に言うことは「此方がすごく勉強になる」と。日本語教室とは学習者と支援者が共に学ぶ場で、それが多文化共生の基本ではないかと思っています。

■ 12月13日(金)夜7時から8時40分までオンライン(ZOOM)で2024年度のTNVN 意見・情報交換会を行いました

今回は事前予約なしで行う初めての意見・情報交換会でしたが、12名の会員の皆さまに参加していただきました。(参加9地域:江戸川区、江東区、渋谷区、杉並区、世田谷区、多摩市、中野区、八王子市、東久留米市)

特にテーマを設定せず、各地域の日本語ボランティア教室の活動について自由に意見交換を行っていただきました。以下が話題となったトピックです。

トピック1 学習者について。昨年来、中国人の入会希望者が急に増え、現在は教室の中で中国人の割合が5割を越えている(江東、渋谷、杉並、世田谷、東久留米、江戸川、多摩)。

またボランティアが足らなくなり、新たな受入れが待ち行列状態になっている(杉並、世田谷)か、新たな受入れは断っている(渋谷、杉並、江戸川)。

トピック2 東京都主導の無料の初級日本語教室について。いくつかの区で実際に区主催の無料初級日本語教室がはじまっているようだが動きが遅い(江東、江戸川)。それ以外の地域での動向は不明。

トピック3 オンライン教材の教室での利用について。1対1の対面で行うにしてもスマホでは画面が小さい。音声を出すと大教室では使いづらい。また動画は対面での活動には使いづらい(特に初級レベル)、などなど...
オンライン教材を教室で使いこなすのはまだまだ難しいようです。

最後に、参加された皆さまからは、各地域の悩みは同じということが分かる一方で、異なることもいろいろあることがよく分かったといった感想をいただきました。今後も地域間で自由に意見交換できる場を積極的に設けて行こうと思っています。

(文責:鈴木)

column

203X年の日本語ボランティア活動 ～ AIは「おしゃべり」が苦手?? ～

AIという言葉を書かない日はない今日この頃です。今後AIはさらに劇的に進化し、数年後には人類の英知を凌駕するとまで予想されています。そのような状況を危惧する向きもありますが、AIがあらゆる面で日々の生活に役立つようになることは確実でしょう。ところでAIは日本語教育にはどのように役立つでしょうか？ 今から5年から10年先、203X年の日本語ボランティア活動はどのようなもののでしょうか？ 活動の様子を大胆に予想(というか妄想)してみましょう...

203X年にはAIエージェント(※)という日本語教師が完璧な日本語教育を学習者に提供していることでしょう。すなわち、AIは学習者各々の日本語レベルを正確に判断し、いつでもどこでも粘り強

く学習者に日本語の指導を行うことができるでしょう。それではその時、日本語ボランティア(人間)は必要なくなるのでしょうか？ いえいえ、みなさん心配ご無用です。

将来、日本語ボランティアは学習者がAIから教わった日本語を実際につかう実践の場を提供する役割を担っていることでしょう。AIは日本語というコミュニケーション「手段」を学習者に教えますが、コミュニケーションすることで得られる「満足感」や「幸福感」は与えることができないのです。その時、学習者との「おしゃべり」こそが日本語ボランティアに託された大事な役割になるのではないのでしょうか。

(文責:鈴木)

(※)AIエージェント: AI機能を持つソフトウェアエージェントまたはアプリケーション

TNVN2025年度総会案内

《総会のお知らせ》

第 32 回定期総会を以下のように開きます：

日時 2025 年 5 月 18 日(日)14:00～16:30

場所 「さぼうと 21 の会議室」

(東京都品川区上大崎2丁目12-2 目黒ミズホビル 6 階)

* 会場がいつもと違いますので、お間違えのないようにお願いします。

総会案内と議案書はゴールデンウィーク明けの週にメール添付で会員宛にお送りします。

当日は総会を 15:30 頃まで、そのあとは簡単なお茶とお菓子を用意して懇親会を予定しています。



総会の会場



東京日本語ボランティア・ネットワーク (TNVN) は都内のボランティア日本語教室のネットワークで、会員からいただく会費で運営している民間の団体です。会員は日本語学習支援活動を通して、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人を、隣人として支援しています。又、TNVN は会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日本語ボランティア相談窓口
日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフが応えます。メールでお問い合わせください。

* 対面でのご相談にもお応えします。
ご希望の方は、以下メールで御予約の上、おいでください。

場所：東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線—出口 B2b)
飯田橋駅下車
セントラルプラザ 10F ロビー

◆郵送先
〒162-0823
東京都新宿区神楽河岸 1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4

◆E-mail: office@tnvn.jp
◆ホームページ: <https://www.tnvn.jp>
◆郵便払込
口座番号：00100-1-719259
加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

◆会員(2025年3月28日現在)
正会員：84団体
個人協力会員：16名
賛助会員：4団体

◆編集／岡田美奈子、鈴木恵司、仁村謙子
林川玲子、山内真理、山形美保子

「感想を是非、お寄せください」

124号アンケート

<https://forms.gle/us>

[FHiUaQAFBB9yeZ6](https://forms.gle/FHiUaQAFBB9yeZ6)



～編集後記～

「子ども達への日本語支援に関心のある方へ」

私の所属クラスでは、子ども達への日本語支援はしていませんが、地域の方から、時々訊かれることがあります。調べるのに、私は『TNVN ネットワークニュース』(以降「会報」と略)のバックナンバーを捲ります。

2年前この会報で、「外国にルーツをもつ子どもたちの今」を二号続けて特集に組み、会員仲間の活動を紹介し、それが TNVN ホームページに pdf でアップされています。

117号で、①中山真理子さんの中野区「多文化子ども自立支援センター」の取り組み紹介、同じ号で、②品川区「IWC 国際市民の会」による補習教室の紹介、③「町田にほんごスクールネット」の立上げから高校進学支援の話、次の118号で、①葛飾区の「なかよし」サポートシステム、基本マンツーマンで、個人カルテを元にスタッフが学習をつないでいく支援の紹介、②中野区国際交流協会の「子どもたちの継続的な学習を支える仕組み作り」の紹介、③国立市「KUNIFA 日本語サポート」で、社会福祉協議会の協力で、ボランティア希望者を募り、子ども達が地域につながる場として学習支援教室をたちあげた話の紹介もありました。



117号



118号

長年、多くの子ども達支援に携わってこられた会員の方々の記録です。「読む」だけでなく、「話す」場に、活動の場に繋がる、それが TNVN ネットワークニュースです。

(文責：山内)